

はじめに

東アジア地域の経済は1980年代以降、長期間にわたり高い成長率で推移しているが、それに呼応し、同地域における航空市場も著しい発展を遂げてきている。国際航空旅客数で見ると、全世界の平均では年3%程度の成長率であるのに対し、東アジア地域の平均では5~8%もの高い成長率を記録している。このように航空需要が高率の伸びを示している要因の一つとしては、近年東アジア地域において複数滑走路を有する大規模国際空港が次々と建設、供用されていることが挙げられる。

一方、我が国においては、空港設置に適した広大な平地を陸上に確保することは困難であり、また仮に整備するとしても、計画・建設段階を通じて、合意形成を含めてかなりの期間を見込まねばならない。現在整備・計画中の関西国際空港の第2滑走路、東京国際（羽田）空港の第4滑走路の供用以降は、我が国の国際空港容量に関して著しい向上が見込めない状況下においては、我が国の国際空港容量の制約が、将来の国際航空ネットワーク上のボトルネックにならないような方策を講じていく必要がある。

このような背景のもと、本研究では、東アジアの国際航空ネットワークについて、現状認識を踏まえ、かつ航空先進地域である欧州の国際航空ネットワークの変遷を辿りつつ、将来動向を展望するとともに、我が国の国際空港の需要動向を概観し、空港容量についての分析・検討を行った。また、あわせて、航空機材の多様化を踏まえつつ、小型航空機材の国際路線への導入可能性について検討する一方で、近年導入が予定されている超大型機A380を対象として、我が国の国際空港への就航に際し、平面的形状や構造的観点から既存施設の改良の必要性について検討した。

本報告書は、平成14年度から17年度の4年間にわたり実施した国土技術政策総合研究所プロジェクト研究「東アジアの航空ネットワークの将来展開に対応した空港整備手法に関する研究」の成果をとりまとめたものであり、本研究の成果が、今後の我が国の空港整備のあり方を検討する際の一助となれば幸甚である。